

新潟県教育長賞

繋いでいくバトン

長岡市立青葉台中学校

三年 江口 りり子

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

私の使用している教科書に書かれている言葉です。

私がこの作文を書こうと思ったきっかけは、この教科書という言葉でした。毎日鞆が沢山の教科書で重かった義務教育九年間の教科書代を両親が全て払っていたら、教育費としてどれだけ大きな負担になっていただろうと考えると、この制度に感謝しかありません。

私の母も中学時代に税に関する作文を書いたそうです。「そんな前から中学生は税の作文を書いていたの？」と言う私に、「中学生でも税金で支えられていることを知ることが大切だからこそ、今も税の作文は続いているんじゃないの。」と母に言われました。

そして、私と母のやりとりを聞いていた父が一枚の紙を見せてくれました。今年度の「納税決定通知書」でした。給与収入から給与所得、所得控除、市・県民税と、普段中学生が使わない言葉が並んでいました。私は、自分には関係がない

と心の中では思いながらも、父の説明を聞きながら、私と父が使う言葉に大きな違いがあることに気がきました。

「税金を取られている」と言う私に対して、父は「税金を納めている」という言葉を使っていたのです。

私にとっての身近な税金は消費税です。自分が欲しいものを買いたいのに、税金が取られる。まだ働いていないし、貯めたお小遣いから余計に支払うという目先の現実だけで、「税金を取られている」という悪いイメージを持っていました。

しかし、父は自分が納める税金から娘の教科書が無償となり、通う学校の修繕や備品購入に使用されていることを知っていました。自分が納めた税金が『別のカタチ』で自分や家族、他の人が助けられているという、『税』に対する知識の違いが、私と父の言葉の違いになっていたのでした。

父は当然のことですが、しっかり納税しています。だからこそ、父は私に堂々と学校へ通い、多くのことを学びなさい、と私に言いました。

来年高考生になると、私の教科書からは、あの言葉は消えているはずですが。

しかし、今度は授業料無償化の対象になります。これもまさしく、私が税を身近に実感できる制度です。税金を納めてくれる人がいるからこそ、今の私、これからの私がいる。今の私は、あとわずかな義務教育期間の中で、教科書を大切に使う受検勉強をしようと思っています。

そしていつか、私が納税者となり、支える側になった時、私がしてもらったように、今度は未来の子供達へバトンを繋いでいきたいです。この先ずっと、税金によって多くの人の幸せが繋がることを願っています。